



大井町学頭四
西尾 富枝さん (99歳)

□プロフィール

晴耕雨読の日課で、たくさんの野菜や果物を育てたり、新聞を読んだり、短歌を推敲したりする。元気の秘訣は、野菜や肉と魚を均衡に食べること、趣味を楽しむこと、笑顔で毎日を過ごすこと。



▲関市新春文芸作品展で賞を受賞 (令和2年1月)

99歳で自身第二作目となる短歌集「遠花火」を自費出版した西尾富枝さん。家族のことや日常、旅行の思い出、新型コロナウイルスなどの歌を610首収録している。短歌との出会いは、小学校6年生のとき。担任から短歌を教わり、作った歌が学校の校誌に掲載されて興味を持つようになった。大人になってからは、子育ての傍ら趣味で詠んでは、新聞に投稿をしていた。

昭和44年に中部短歌会に入会し、本格的に詠み始めた。その他、毎月作った歌を2首ずつ持ち寄り、仲間たちの歌から勉強をしたり、アドバイスをし合ったりした。その後、県歌人クラブと草笛短歌会にも入会し、多い月は10首以上詠むときもあった。

88歳で第一作目の「しろがねの馬」を出版。「孫やひ孫に、おばあちゃんやどんな人生を送っているのか知ってほしくて作った」と振り返る。

一日一日を大切に生きる
610首収録の短歌を自費出版

今は、毎月7首の歌を詠んでいる。見たり聞いたりしたことを詠んだり、幼少期のころを思い出して詠んだりとさまざま。これまでに詠んだ歌は6万首を超える。旧字かなを使うことがこだわりで、電子辞書を片手に常に学ぶ姿勢だ。「未知の毎日だけど、詠むことが生きがいであることに変わりはない」と力強く頷く。

過去には、大病や骨折などで入院をし、5回も手術をした。家族の支えと、絶対に治すというポジティブな気持ちで困難も乗り越えてきた。

そんな経験から生まれた一つの歌が「ささへられ長き道のり一世紀つつしみ生きむたふときいのち」だ。この歌は「遠花火」の最後を飾る歌で、人生とは生まれた時に与えられたものであるから一日一日を大切に生きたいという意味だ。西尾さんは、これからも人生の足跡を歌に託したいと願っている。



その他の話題もウェブサイトに満載

6/21

恵那観光大使に
新たに4人を任命



恵那観光大使に、前明光化成工業㈱社長の河合邦彦さん、書道家の可知凜花さん、フリーアナウンサーの西村知穂さん、講師の神田昌味さんが新たに任命され、市をPRしていくと意気込みを語りました。これで、恵那観光大使は36人になりました。

6/16

2年間かけて疑問を探索
課題研究の発表会



恵那高等学校普通科3年生による探求授業の発表会が行われました。生徒は、芸術や心理学などからテーマを決め、2年生から研究を重ねてきました。物理グループは「紙ストローの快適な使い方」と題し、紙ストローがふやけず使える温度の研究結果を発表しました。

6/27

モータースポーツに使ってと
企業版ふるさと納税で寄付



子ども服などを販売する㈱シ・シュ・ノン(名古屋市中区)から、企業版ふるさと納税を活用して100万円が寄付されました。市出身の鈴木周二社長は「モータースポーツ事業に役立ててほしい」と話しました。寄付金は、ラリージャパンイベントの開催などに使われます。

6/24

カードゲームで
楽しくSDGsを学ぶ



三郷町のまち講座の一つである「カードゲームで楽しくSDGsを学ぼう」が開催されました。どのような行動が世界の経済・環境・社会に影響していくのかをカードを使って学習。参加した畠山真弓さんは「広い視野を持つことが重要だと気が付いた」と話しました。

7/4

夢や目標を持って挑戦するよ
小坂市長へ夢を語る



東野小学校で市長と夢を語る会が行われ、4年生から6年生が自分の夢や目標を発表したり、小坂市長から市長になるために取り組んだことを聞いたりしました。6年生の渡邊紗季さんは「保育士になりたいので、低学年の子と仲良くなるように頑張っています」と話しました。

7/2

安全に水遊びができるように
寿老の滝滝開き



三郷町にある寿老の滝で滝開きが行われ、市観光協会三郷支部の関係者らが、訪れる人たちの安全を願いました。寿老の滝は、夏に水遊びができる三郷町の人気観光スポット。8月11日から15日には五平餅の販売などが行われる予定です。